

# 安全に抗がん剤治療を行うために

抗がん剤を投与(服用)した後の排泄物(尿・便・吐物等)には、

抗がん剤の成分が含まれている可能性が高いです。

周りへの影響を防ぐために取り扱いには十分な注意が必要です。

## トイレの時

- 男性も女性もできる限り洋式トイレを使用し、飛び散りを防ぐために座って行いましょう。
- 終わったらふたを閉めてから水を流しましょう。



流れが弱いと感じたら  
2回流しましょう！

## 汚物を処理する時



- おむつ等、排泄物の付いたものを取り扱う時は使い捨ての手袋を付けましょう。
- ゴミは袋の口を固くむすび、ゴミ収集日に捨ててください。

## 家で洗濯をする時

- 排泄物で汚れた衣類・シーツ等は手袋をつけて付着部を流水で洗い、次に洗剤を使用して洗いましょう。
- 他の洗濯物とは区別して通常の方法で洗濯してください。



## 抗がん剤を飲む時



- カプセルをはずしたり、かみ砕かないようにしましょう。
- 介助する場合、介助者は使い捨ての手袋を着用するなどできる限り抗がん剤に直接手で触れないようにしましょう。

**手洗いは全ての作業に必要です。作業の前後は手を洗いましょう。**

**投与後 48 時間は排泄物(尿・便・吐物等)に抗がん剤が多く含まれている可能性が高いです。少なくともこの期間は上記のことに注意してください。**

## 内服がむずかしい場合

錠剤やカプセルを飲むことがむずかしい場合は「かんいけんたくほう簡易懸濁法」を行ってください。

- ①手を洗い、手袋（マスク、使い捨てエプロン等もあれば望ましい）を着ける。
- ②お盆の上に吸水シート（ラップ+キッチンペーパーでも可）を敷き、その上で作業を行う。
- ③注射器のプランジャーを抜いてはずし、シリンジの中に薬を入れる。  
その後プランジャーをもとどおりにしっかり押し込む。
- ④約 55℃の温湯を 20mL 程度吸い上げる（図 1）。  
（ポットのお湯:水道水=2:1 でだいたい 55℃の温湯になります。）
- ⑤シリンジキャップを付けた状態で、静かに混ぜ、薬が溶ける間まで約 10 分間置いておく。
- ⑥服用直前に再度混ぜ、溶けていることを確認してから投与する。
- ⑦作業後はしっかり手を洗う。

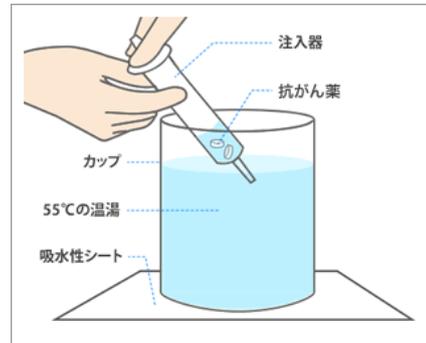
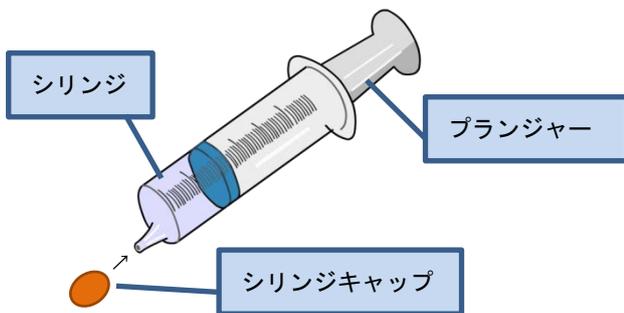


図 1：看護師のための抗がん薬取り扱いマニュアルより

- ★吸水シートなどの廃棄物は「汚物処理」と同様の方法で廃棄しましょう。
- ★おくすりの中には簡易懸濁に向かないものもあるため、医師または薬剤師に相談してください。

## ストーマを使用している方

- ◆ストーマ装具の交換は抗がん剤を投与する前に行いましょう。
- ◆作業の前後はしっかり手を洗いましょう。
- ◆必ず手袋をつけてストーマ装具の交換を行いましょう。
- ◆次回の交換は抗がん剤を投与した 2 日後に交換するようにしましょう。  
毎日交換している場合は、今までどおり毎日交換してください。



# 粉薬の取り扱いについて

粉薬は飛び散りやすいので特に注意が必要です。

## ☆飲む時の注意点☆

- ・おくすりを飲む前後はしっかり手洗いをしましょう。
- ・粉薬に手が直接触れないように気を付けましょう。
- ・内服を介助する場合、介助者は手袋(マスク、使い捨てエプロン等もあれば望ましい)を着用しましょう。
- ・お盆の上にキッチンペーパー等を敷き、その上で薬を取り扱うようにしましょう。

### 【水に溶かして内服する場合】

- ①本人専用のコップを準備する。  
(使い捨て可能な紙コップだとそのまま汚物処理と同様の取り扱いで廃棄できるためおすすめです)
- ②薬が飛び散らないように気を付けながらコップに入れ、水を加える。  
⇒薬の吸収に影響を与えることもあるので、水で溶かすこと。
- ③溶かした薬をそのまま内服するか、スポイト等を使用して内服し、その後、水を飲む。
- ④内服後はティッシュやウェットティッシュ等で口の回りを拭く。

### 【粉薬をそのまま内服する場合】

- ①なるべく口の周りにつかないように口腔内へ入れ、内服する。その後、水を飲む。
- ②内服後はティッシュやウェットティッシュ等で口の回りを拭く。

## ☆片付ける時の注意点☆

- ・手袋を着用し、使用した器具を通常の食器洗い用洗剤で洗きましょう。  
(手ではなくスポンジを使用する場合は、専用のスポンジを用意すること。)
- ・使用した器具を洗った後はシンク全体を2~3回水でしっかり流しましょう。
- ・廃棄物はまとめて袋に入れ固くむすび、ゴミ収集日に捨ててください。

